



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

## 葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.68 絵と文 群馬直美

### 柿の実アワー《カキ》

ヤマトビオトープ園では、たくさんの野鳥が集うように、  
鳥たちの好む樹も植えられ、《野鳥の給餌台》も設置されている。  
木の枝でこしらえた風情ある給餌台に、半分に割れた柿の実がちょこんとふたつ。

園内にある柿の木の実と同じ形、同じ色をしている。

今朝、誰かがひとつもぎ取って、鳥たちのために置いたのかもしれない。

薄い皮の切り口が、微妙にギザギザしているところがとてもいい。

柿特有の独特な葉脈もくっきり見て取れる葉っぱ付き。

ヘタの中央の枝の切り口が白く輝き、茶色の学ランを着た応援団長の様。

葉っぱの横断幕を背後になびかせているみたいだ。

この応援団長付きの柿の実を小箱に入れ、足早にビオトープ園を後にした。

立川に着いた頃には、日が沈みかけ濃紺色の夕闇が迫ってきていた。

「早くアトリエに行かなくては！」

駐輪場に止めていた自転車に跨がり、アトリエに急ぐ。

柿の実の“老い”の速度に負けまいと、一生懸命にペダルを踏む。

前のめりで自転車を漕ぎながら西の空に目をやると、

どつぷりと熟れた大きな柿の実のような太陽が、立川の街並を熟しながら落ちて行く。

5階建てのマンションの外階段の丸い電灯も、柿色に灯り出した。

〈青・黄色・赤〉の信号機の点滅も、〈青柿・黄色柿・完熟柿〉……。

行き交う車のヘッドライトも〈柿の実ランタン〉……。

「あれえ?! 街中に柿の実があふれ出て、なんだかじろじろ、のんびり甘くとろけていく……」

束の間《柿の実アワー》に、私も柿の実のように目を丸くして酔いしれた。

『神々の食べ物』という意味の学名を持つ木、柿の木が、

ヤマトビオトープ園にたたずんでいる。

### 表紙の絵「カキの実の断面」

ヘタの真ん中に、葉っぱの横断幕を振りかざした  
茶色い学ラン姿の応援団長がいる!

- ・ヤマトビオトープ園にて2023.10.23採集
- ・紙(ファブリアーノエキストラホワイト 極細目)/テンペラ
- ・size:335mm×245mm
- ・2023.11.10完成 © Naomi Gumma

### 建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2024年1月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ [www.yamato-se.co.jp](http://www.yamato-se.co.jp)

#### 群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>